

学校名：横浜市立勝田小学校

担当：第4学年

氏名：工藤 隆太郎

1. 今回の研修における目的やねらい

タンザニアと聞いて自分自身が正直あまりイメージをもっていなかった。勝手にアフリカというくくりで砂漠、貧困、発展途上の国という思い込みをしていた。その情報もメディア等から受けた一部の偏ったイメージ。だからこそ自分がその場に立ち、目で耳で、肌で…五感を使ってタンザニアという国を知り、感じたいと思っていた。

そして、自分が知り感じたことは、きっと子どもたちの気もちも突き動かすものがあると信じている。タンザニアという国を通して、多面的に人や物事を見られる子どもたちを育てていきたい。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

やはり「百聞は一見に如かず」であった。行く前のイメージと今思っていることがここまでも違うものかと感じている。一番の違いは「同じ」であるということである。物質的な面で変わらないことはもちろん、何よりタンザニアにも人々の生活があり、人々の思いがある。遠く離れていようとそれは変わらないということを強く感じた。今こうしている瞬間も、タンザニアで、世界で、人々が生きているのだということを…。この思いはぜひとも子どもたちにも感じてもらいたいと思っている。

3. タンザニアから学んだこと

自分がどれだけ偏った見方や考え方で見ていたか、自分の無知さを知った。そしてタンザニア人は…、アフリカは…など、知らず知らずのうちに何事も一般論化して考えていることに気が付いた。私も日本人は…、教員は…と一括りにされるのは決してよい気分はしない。必ずそこには様々な思いを抱えた人がいて、性格も多種多様である。何をすることも人の顔を浮かべて考えていきたいと思うようになった。

あいさつの魅力に気づかされた。こんなにもあいさつをした経験は今までなかったかもしれない。ホテルや街中ですれ違う人が気軽にあいさつをしてくれる。いつの間にかこちらからも自然に声をかけられるようになった。直接関わらせていただいた方は、私たちが大人数にも関わらず必ず一人ひとりにあいさつをしてくれた。またスワヒリ語にはいろいろなあいさつがあるが、「調子はどう。」に対して「元気だよ。」と答えるように、必ずあいさつが対になっている。ここに相手のことを思いやる気もちが表れているように感じる。普段、子どもたちにあいさつについて指導はしているが、タンザニアでの思いを伝え、あいさつの魅力を感じてもらえるようにしたい。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

学んだこと、子どもたちに伝えたいことは言い尽くせないほどある。しかし、ステレオ的に一方的に伝えてしまえば、それこそ子どもたちに偏った見方や考え方を与えてしまいかねない。学んだこと、伝えたいことを教育のめあてに合わせて教材化していくことが今後の大きな課題である。さらに今後も継続して開発教育を行っていきえるようにしたい。そのために、研修経験から多くの方が実践できる共通教材を作っていきたい。実践では子どもたちだけでなく、授業参観等を通じて保護者にも伝えられる機会をもちたい。

さらに、職場で研修会の機会を設けていただき同僚や職場の仲間にも伝え、この研修が少しでも多くの人のためのものにしていきたい。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

JICA の同行者の方はもちろん、タンザニア JICA 事務所の方には本当にお世話になった。このご協力がなければこんな素晴らしい研修にはならなかった。また、事前研修の段階から開発教育に関する学習ができた、海外研修に向けての実務的な準備もしっかりとできたりしたことで海外研修でより多くのことを吸収してることができた。

海外研修の日程、内容も大満足だった。過度な負担になることがなく、さまざまな分野の現場を見ることができた。そのおかげで一つ一つのことについてもじっくりと考えることができた。農家の方の家に入り、一緒にご飯を作ったり、家族と触れ合ったりする経験も貴重だった。やはり人と触れ合うことで見えてくるもの、感じてくるものが多かった。学校も3校も回ることができた。正直、嵐のような訪問で学校の職員、隊員の方には負担をかけたと思うが、一緒に子どもたちと座って授業の様子を見られたり、子どもたちと関わったりできたことは大変嬉しかった。教師海外研修ということなので、今後も少なくとも2校は学校と携われるような内容になるとよいと考える。

そして素敵なお仲間と巡り合えたことが研修をよりよいものとしてくれた。毎日の振り返りで仲間たちと話し合うことで、様々な視点から研修を振り返ることができ、考えを深めることができた。仲間みんなまで学ぶことが自分の五感をより研ぎ澄ませてくれた。素晴らしい仲間との出会いに感謝したい。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

副団長として団長を支えたいという思いがあったが、JICA 事務所や大使館、食事会などは全て団長があいさつをしていたので、大きな負担をかけてしまったと思う。事前に少しでも役割分担を明確にしていければよかった。

各役割と訪問先担当、日直を事前にバランスよく分けることができたことは非常によかった。負担が偏りなく取り組み、大きなミスやトラブルなくスムーズに行くことにつながったと思う。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

毎日が驚きや発見に満ち溢れた 10 日間だった。こんなにも充実した研修はなかった。もし旅行でタンザニアに来ることができたとしても、こんなに多くことは間違いなく学ぶことはできなかった。旅行は旅行のよさがあると思うが、活動や生活の現場に入り、そこに携わる人々の思いを感じられたことが一番の違いだったと思う。そしてそこには必ずコミュニケーションが生まれた。コミュニケーションを図ることで互いの思いを分かち合えたり、一緒に笑い合ったりすることでつながることができた。そこには、年齢や肌の色などの違いは全く感じられなかった。コミュニケーションを図る上で言語の大切さも実感した。わずかなスワヒリ語しか使うことができなかったが、スワヒリ語で話すことで誰もがより好意的な態度を見せてくれた。考えてみると私も日本語で声をかけられると嬉しくなる。相手の言語で話すということは、相手のことを理解しようとする気持ちを表す大切なメソッドなのだと思う。一方で英語の重要性も痛感した。思いや考えを伝えたり、相手のことについてより聞いてみたいとなった時、相手に伝える方法がないとそれを諦めてしまう自分がいたからだ。相手の話を聞く時も同じだった。一生懸命に英語で説明してくれるが分からない様子が続くと相手も困ってしまったようだった。そういったことから、さらにコミュニケーションを深めていく上で英語の必要性を感じた。今後、言語学習に励んでいきたい。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

参加者との絆が何より大切。参加者が思いを伝え合い、助け合えることで同じ行程でも学びは全く変わってくると思う。このメンバーに出会えたことを幸せに思う。そしてもう一つは、「迷ったらチャレンジ」。一瞬一瞬が貴重な経験だった。後悔しないように思ったことを提案してみたり、積極的に会話をしたりすることで研修がよりよいものとなることは間違いない。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月10日(月)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	初めてアフリカ大陸が見えた時の感動、降り立った時の躍動感は忘れられない。車がほぼ日本車なことに遠く離れた場所ではないように感じた。
8月10日(月)	JICA タンザニア事務所表敬研修ブリーフィング	所長の「タンザニアと日本のかけ橋に」という言葉が印象に残っている。これから始まる現地研修の学びを日本に戻りどう生かしていくのかをしっかりと考えていこうと改めて心に強く刻むことができた。
8月10日(月)	JICA 所員との懇親会	ビルに囲まれたおしゃれなレストラン。都内のレストランを想像させるような雰囲気にはびっくりした。JICA の職員の方がタンザニアのことを嬉しそうに話してくださることが嬉しく、タンザニアを大好きになれると思えた。
8月10日(月)	本日のふりかえり	日本との違いはという先入観があったが、変わらないということが話題になった。ダルエスサラームの都会な様子に、みんなが驚いていた。ただ、信号待ちで売り子が大勢いたり、その中には子どももいたりしたので、経済発展の裏の経済格差が気になった。
8月11日(火)	JICA タンザニア事務所研修ブリーフィング	アフリカというところで開発支援をしているという知識だけしかなかった自分。タンザニアの現状やJICA の方の実際の取り組みを知ると、今までの自分の無知さが恥ずかしくなった。午前午後もブリーフィングだったが、もっと話を聞きたいと思うほど強く興味をもった。いろいろなところで人ががんばっているのだと熱くなるものがあった。
8月11日(火)	本日のふりかえり	まちの人がいきいきと生活している様子、しっかりと身なりに驚いた。その中でもマサイの人は衣装を着ていることに、人々が互いを認め合っている様子が伺えた。また支援とはどうすることなのかを考えた一日だった。支援は止めづらい。本当はいらぬものはあったのではないか。各国の思惑。今までの支援の歪みがあるのでは。支援に対する考え方を見直さなければと思った。
8月12日(水)	キリマンジャロへ移動	涼しくて気持ちよい。わずか1時間の飛行だったがその気候の違いに驚いた。どこまでも続くまっすぐな道と広大なとうもろこし畑。ダルエスサラームとの違いを感じた。
8月12日(水)	キリング中等学校赤木隊員活動視察	自分たちを受け入れてくるのだろうか。どんな風に見られるのか心配であった。しかし、自分でもびっくりするほど教室に自然に入り、子どもたちと関わることができた。自分のために席を譲って

		くれる子、答えが合っていると聞いてくれる子、積極的に話しかけてくる子、写真を一緒に撮りたがる子などいたが、そこには必ず笑顔があった。自分は普段こんなに笑顔だろうかと思わず考えさせられた。やはり子どもたちの交流というのは、楽しい。
8月12日(水)	モシへ移動	まっすぐな道に数キロごとに集落がある様子。キリマンジャロ山はどこなのだろうと見渡すが見つからない。そうしているうちにモシのまちに着いた。建物は高くないが、交通量や建物が密集している様子から、この周辺では大きなまちであると分かった。
8月12日(水)	隊員との懇談会	隊員さんたち行きつけのお店に連れて行っていただいた。次の日の計画について植松隊員と直接話し合いつめることができた。振り返ってみると、ここのウガリが一番美味しかった(お店では)。料理が出てくるまで1時間以上。タンザニアタイムを感じることができた。
8月12日(水)	本日のふりかえり	「幸せとは？」のアンケートに教育と答える子が多いことが話題になった。勉強好きと聞くと全員が「好き。してる。」と答える。何度繰り返しても答えは同じ。本心なのだろうか。タンザニアの教科書は実態に対して難しすぎる。繰り返す、繰り返すもできない子もいる。学校現場が徹底してそのような考えを教え込んでいるのでないか。子どもたちの感じる幸せに違和感を感じた一日だった。
8月13日(木)	カランガ小学校 植松隊員活動視察	カランガ小学校でも実際の授業の場面に入って交流することができた。授業と一緒に入ることで、子どもたちの普段の様子が見えてくるのでより感じるものが多い。答えが合っていた時、クラス全体でリズムを打つ様子がすごく微笑ましかった。タンザニアでは、正答はチェックをするだけらしく花丸をつけてあげるととても喜んでくれた。休み時間は一緒にサッカーをすることができた。野球ボールのようなものでサッカーをしていたが、夢中になって一緒に楽しむことができた。スポーツはどこでも通じ合うことができる。スポーツのもつ素晴らしさを実感した。
8月13日(木)	警察学校 江波戸隊員活動視察	広大な敷地に様々な施設があったが、正直施設の古さや環境があまりよくないという印象を受けた。人として生徒が扱われないという話も聞き、警察官を育てるところとして、教育システムとし

		てもどうなのだろうと考えさせられた。
8月13日(木)	本日のふりかえり	隊員が現場でできることは何なのだろうと考えた。隊員が現地の学校に馴染む難しさを感じるとともに教員経験がない人が即派遣されていくとなると教育技術の普及も難しい。協力隊の派遣要請と現場の歪を感じた。また、やはり教育現場の物資不足は否めなかった。ボール、柔道着、畳…。物がないとできないこともある。ただ一方で物がありすぎると選べない日本での普段の現状。物の大切さを感じた一日だった。
8月14日(木)	タンライスプロジェクト 視察	この研修で一番ハードな道だった。砂埃が舞い、こんなところのどこで稲作が行われているのかと思われるようなところにKATCもあり、最初に水田を見るまではその様子を信じられなかった。しかし、そこには広大な水田があった。アフリカ、タンザニアに水田があって嬉しくなった。どこか落ち着き、懐かしさを感じた。ところどころ、田んぼにヤシの木やバオバブの木があるところがおもしろかった。
8月14日(木)	専門家との懇親会	大泉さんご一家と食事ができて嬉しかった。二人のお子さんは生まれてからずっとタンザニアで暮らしていると聞いた。大泉さんがこちらで働いているから当たり前のことかもしれないが、正直すごいと思った。二児の父である自分にそういった決断はできるのだろうか…。大泉さんのタンザニアに対する本気さと仕事に対する責任感に胸が熱くなった。
8月14日(木)	本日のふりかえり	何をするにも人材育成が大切、それを痛感した一日だった。教育というと学校現場というイメージがあるが、どんなところでも人を育てていくことが一番大切である。どんなに便利な道具やもの、技術を提供してもそれを使ったり、運用したりしてくるのは人である。支援には、必ず人の姿、顔を浮かべていかないといけないと思った。
8月15日(木)	タンライスプロジェクト 農村視察	この日は農村に入って日中ホームステイのような形で交流できた。お客さん待遇とはいえ、実際の生活を垣間見られたことは貴重な経験だった。器用に道具を使い、料理をつくる様子は見事だった。一つ一つの料理をきれいな入れ物に入れて出してくれた。心を込めて作ってくださっているのが分かった。出来立てのご飯はやっぱりとてもおいしかった。ウガリも一番美味しかった。やはり人の顔が見えるというのが大きいのだと思う。下げ膳

		を手伝ったら笑って喜んでくれた。ただここで感じたのは、ジェンダー、縦関係がはっきりしていることだった。料理は女性を作るもの。お客さんは食べている間、主人以外は食べない。片づけもすべて女性。主人が子どもたちに大声で指示している様子も気になった。タンザニアのことをより深く理解していくためには、ジェンダーは必須事項だと思う。
8月15日(木)	市内視察	隊員さんの付添で市場の中を歩くことができた。感じたことは、色の多さ。アフリカというと勝手に色が少なく暗いイメージと思っていたが、市場に並ぶ生鮮品や服飾品は色鮮やかで見ているだけでわくわくした。
8月15日(木)	本日のふりかえり	農村にお邪魔した際、一家の子どもたちとも楽しく遊び交流することができた。ただ、最初はかなり私たちの様子を伺っていた。打ち解けられたのは、あいさつと自己紹介をしてからだった。当たり前のことだが、子どもであれコミュニケーションを図る、相手のことを聞く時には、最低限こちらから名前を伝えるのが大事であると強く感じた。
8月16日(金)	ダルエスサラームへ移動	正直ダルエスサラームに戻りたくなかった。モシの気候や雰囲気が自分には合っていたのだなと思った。こういう感覚は、モシに住んでいるなどはあるのだろうか。
8月16日(日)	専門家との懇親会	港の見えるホテルのレストランでの会食だった。見える夜景は横浜の山下公園からの景色のようだった。タンザニアの新たな一面をまた見ることができた。足立さんの娘さんとも交流することができて楽しかった。
8月16日(日)	本日のふりかえり	午後、今までの振り返りをゆっくりすることができた。教材についても話を深めることができ、後半の活動の視点を確認することができた。
8月17日(月)	タンザニア電力供給公社(TANESCO)プロジェクトサイト視察	無償資金協力の作業現場を見学することができた。こんなにも多くの日本の企業の方が働いているということに驚くと同時に日本でそれを知っている人いったい何人いるのだろうと思ってしまった。「便利になることが全ていいとは言えないが、わたしたちはまちを明るくするためにがんばっている。」という思いは、いろいろな状況や立場を考えて支援をする人だからこそ言えることだと思う。子どもたちにぜひ伝えたいと思った。
8月17日(月)	市内視察・教材購入	ティンガティンガ村を訪れることができた。普段、

		<p>絵画にそこまで興味はないが、色鮮やかな絵の数々に本当に魅了された。全て額ごと持ち帰りたかった。一つ一つの看板に自分の好みのネーミングを入れてもらえるのもすごく嬉しかった。形として残る最高のおみやげとなった。</p>
8月17日(月)	本日の振り返り	<p>ODAの金額だけでは、人の顔が見えない。使命感をもってやっているからこそできる取り組みであると改めて感じた。「相手を信じてあげることができれば、相手も変化する。対等な立場として。」支援に大切なもの…やはり最後は人である。</p>
8月18日(火)	ムランディジ小学校 三隅隊員活動視察	<p>カラंगा小学校では、「楽しみは何か」について聞いた。ここでは、「好きな食べ物」について聞いた。好きな食べ物という答えやすいのではと考えていたが、友だちのまねをする子がここでも多かったように感じる。タンザニアでは、一問一答のような質問が多く、あまりこういった開かれた質問は少ないのだと思う。タンザニアの教育の建物や道具等のハードな部分での課題もあるかもしれないが、教育方法という点で改善すべきものがあるのではないかと感じた。</p>
8月18日(火)	市内視察・教材購入	<p>一番大きなスーパーに連れて行っていただいた。そこで感じたことは、スーパーはどこに行っても一緒。特色がないということ。市場のようなワクワク感はなかった。日本の自分たちの生活は、ある意味寂しいのではないか…。便利さとは、発展とはについて思わぬところで考えさせられた。</p>
8月18日(火)	JICA 所員との懇親会	<p>再び JICA の職員の方と会食をすることができた。前回よりも安心して落ち着いた気持ちでお話することができた。わずか 1 週間ぐらいだが、タンザニアのことについて知り、感じてこられたことが自分の中で自信となっているのだと思った。</p>
8月18日(火)	本日のふりかえり	<p>ムランディジの特別支援のことが話題となった。親が就学させたくないから、集落に教員が特別支援の子を探しに行く現状。そもそも特別支援ができる学校の少なさ。モシで教育長のような方に出会ったが、その方が言っている問題点と現状とではずれを感じざるを得なかった。こういう面での支援ということは、できないのだろうか。歯がゆさを感じた。</p>
8月19日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会および記者発表会	<p>プレスに研修の学びを報告した。ここでも英語力のなさが悔しかった。いやこういう場面だからこそより言葉の力は大きいかもしれない。</p>
8月19日(水)	在タンザニア日本大使館	<p>大使と直接お話しすることができた。子どもたち</p>

	表敬訪問	<p>へのメッセージという話の中で、「世界の国々はそれぞれよさがある。いろいろな目で見て、自分が活躍するのはどこがよいかを考えられる人になって欲しい。ある意味途上国には未来がある。」という言葉があった。昨今グローバルな人材とよく聞くが、ただ英語を話せばよいと思われているところがあるのではないだろうか。自分のよさを生かす上で、世界を見て国を理解する。それこそがグローバルな人材と言えるのではないかと思った。そしてそこに必要なことは、何事も多面的にとらえられる力。今回の研修を子どもたちにどう伝えていくか道筋が見えた気がした。</p>
8月19日(水) -20日(木)	タンザニアから日本までの移動中および日本到着	真夜中のドーハの暑さ。やはりそこにはいかないと分からないことはたくさんある。